

サハ共和国・ヤクーツクだより ⑥

杉嶋俊夫

前回に引き続き、現地で体験したことを記していきます。

ロシアも、五月上旬はゴールデンウィークです。ヤクーツクでもメーデーを皮切りに市内のあちこちの施設でイベントが行われました。中でも私が感心したのはアニメ・ノンストップという催しです。深夜に始まる日本アニメ上映会でしたが、単なるレイトショーではありませんでした。5作品ほどの上映の合間に、クイズ、ゲーム、キャラクターのものまねコンテストなどが行われ、大量の豪華な賞品が振舞われました。若い観客たちが舞台上に上がって心から楽しそうに参加していました。このイベントはアニメを愛好する10代の若者が、5年以上前から毎年、企画・運営しており、スポンサーはまったく儲けゼロで賞品を提供しているそうです。

翌日、市内にある児童センターを覗いてみたら、ちょうど子ども芸能大会が始まるころでした。サハ共和国の各地から集まった子供たちが踊り・歌・ホムス(口琴)演奏などを競いました。優勝したのは和太鼓の音楽に合わせて踊った、市郊外にある町の子供たちでした。ヤクーツクだより第2号(‘わんりい’184号)に写真が載っています。

同じ日の夕方、市内の立派な競技場を使って「歌の日」と呼ばれるイベントが行われ、様々な世代のプロ・アマチュア歌唱グループが出場しました。大半はサハ共和国内からの参加で、サハ語の歌が多かったのですが、ロシア民謡アンサンブルや中央アジアからのゲストも来ていました(写真1)。

翌週、外国人教師・留学生らと市の北側を流れるレナ川の流氷を見に行きました。前月に凍ったレナ川を自動車で渡って自然公園に行ったのですが、その頃は分厚かった氷も、すでに割れ、直径5m前後の塊が無数に浮いていました。残念ながら浮いているだけで、氷が流れるところは見られませんでした。その時の写真も、たより第2号に載っています。

もうこの時期になると夜の闇の時間は短くなり、夜10時頃まで外が明るくなります。前号で「書物の夜」のイベントについて触れましたが、5月中旬

には「美術館の夜」というイベントに参加しました(写真2)。

プログラムは、展示の解説、サハ映画上映・監督との交流会、クラシック音楽演奏、地元若者グループのライブ演奏といった内容で、私は伝統工芸の解説を楽しみにして行ったのですが、ロシア語で解説が始まったと思ったら「ロシア人のお客様はいらっしゃいませんね、では、サハ語で。」と言われてしまい、何もわからぬまま展示物を眺めるしかありませんでした。

5月の末、日本で研修を受けたサハ人調理師たちによる報告会兼試食会が行われました。サハの各地から選ばれた10人の調理師が日本料理の研修に参加したのでした。代表以外は全員女性でした。市内にも数軒、日本料理店と名のつくお店はありますが、その日、私は初めてヤクーツクで「日本料理らしい日本料理」をいただいたのでした。

翌日は、オリガ・パドゥルージュナヤという若い女性の口琴演奏ライブを聴きに行きました。彼女は、音楽学校で西洋音楽の教育を受け、口琴と出会ってプロの口琴奏者となり、数年前まではアヤルハーンという女性口琴トリオの一人として活躍していました。民族的にはウクライナ人で、サハの村で、サハの言語と文化にどっぷり浸かって生まれ育ったというちょっと変わった経歴の持ち主です。私が聴きに行ったライブでも素晴らしい演奏を披露してくれました。

6月初旬、極北芸術文化大学の学生たちのお芝居を鑑賞しました。この大学には伝統芸能専攻のほか、西洋音楽や演劇の専攻があり、私が観たのは演劇専攻の最終学年の卒業発表でした。(ロシアでは年度は秋に始まり、夏に終わります。)この大学の演劇教育のレベルは非常に高く、実際に多くの優秀な俳優を輩出しています(写真3)。

数日後、北東連邦大学付属の博物館で始まった「さむさのあたたかさ」と題する展覧会を観に行きました。これはフランスの大学と北東連邦大学との合同プロジェクトで、サハやロシア在住のアート作

家らが北方をテーマにした作品を出展しました(写真4)。

次号では、6月中旬以降に体験したことを、夏至祭りを中心にして記したいと思います。

11月9日(土) 13:00 ~ (小田急線泉多摩川駅徒歩3分)日本シルクロード文化センターの講座で杉嶋俊夫さんが、ヤクーツク滞在中の話をします。詳細は、日本シルクロード文化センター (<http://silkroad-j.lomo.jp>) HPから、左側メニューの「シルクロード講座」にあります。



1 歌の日

サハではソ連崩壊以降、積極的に伝統文化とサハ語の復興を行いました。いま、歌は、サハを代表する文化の一つになっています。この催しには小さい子供から高齢の方に至るまで様々なグループが出場しました。



2 極北芸術文化大の演劇

卒業発表の演目選ばれたのは「モーグリ」(英国の小説『ジャングル・ブック』)。演技のすばらしさはもちろん、観客のすぐ近くで激しく動き回っていたため出演者がみな大きく見えたのが印象的でした。



3 美術館の夜

普段は市内の喫茶店で行われている無料映画上映会が、この「美術館の夜」のプログラムの一つとして行われました。サハ映画もいまやサハの立派な文化の一部です。写真左側に立っているのは上映会の主催者。サハの過去と現在を知る、活動的な女性です。



4 さむさのあたたかさ

絵画、写真、彫刻、オブジェ、衣服など、北方地域の自然環境と、その中で育まれた感覚に基づいたユニークな作品がスペースいっぱいに表示されていました。次回はフランスの作家との合同で、屋外にも展示して、よりユニークなコンセプトのイベントにしたいと主催者は言っていました。